

あとがき

ダウン症のある子を授かったとき、「すぐに役に立つ情報が欲しい」と思ったのは私自身でした。どんなふう育てていくのか？何をしたらいいのか？同じ思いを経験してきた仲間だからこそわかる痛みを、これからのママたちに味わってほしくないと思うようになったのが、この「子育て手帳」ができるきっかけでした。

ダウン症のあるおさんの多くにある、21番目の1本多い染色体は、赤ちゃんからのたいせつなおくりもの。タイトルにある「+ Happy」の「+（プラス）」は、赤ちゃんが運んでくれた“プラスの幸せ”を意味しています。

サブタイトル「しあわせのたね」は、ダウン症のあるリコーダー奏者・荒川知子さんのCDアルバムタイトルからいただきました。ご家族の愛情のもと、すくすくと育つ「しあわせのたね」は、きっと見たことのない大きな花を咲かせてくれることでしょう。

この「+ Happy しあわせのたね」を手にしたご家族が笑顔いっぱい子育てができますように、心から願いを込めて、ダウン症のある書家・金澤翔子さんの書をお贈りします。

最後になりましたが、この手帳の製作にあたりご寄稿いただきました皆様、アンケートにご協力くださいました皆様心より厚く御礼申し上げます。

21+Happy 佐橋由利衣

♪「21+Happy」とは、東海三県（愛知・岐阜・三重）にお住いの方やこの地にゆかりのある方でダウン症やその他染色体起因による障がいをもつお子さんのご家族や、そのご家族を支援してくださる方が集うインターネット上のコミュニティ（サークル）です。平成22年から各地を巡回する写真展や写真集を制作し、楽しく幸せに暮らしている家族の姿を通して「知ってもらおう」活動を続けています。♪

■ 表紙の絵

稲田萌子（いなだ・もえこ）

クラフト工房「La Mano（ラ・まの）」所属「無題」2008年

水彩・コラージュ 34.8 x 24.8cm 個人蔵
写真・プロフィール提供：小出由紀子事務所

profile

稲田萌子さんは1985年・京都生まれ。高校卒業後、東京都町田市にある〈クラフト工房 ラ・まの〉に参加して創作活動を始めました。様々な技法を用いていますが、とりわけすばらしいのが貼絵です。彩色した和紙をちぎり、水に濡らし、貼りつけていく作業には確かなリズムがあり、萌子さんの優しさと強さ、そして色彩感覚を物語っています。

企画・制作：21+Happy（佐橋由利衣 大谷裕子）

装丁・デザイン：澤地真由美 題字：松田朔空（2009年生まれ／当時4歳）

編集：やまもとまさこ 上原公子

協力：中込さと子（山梨大学大学院総合研究部教授） 玉井浩（大阪医科大学小児科教授）

2017年発行

発行：公益財団法人日本ダウン症協会 発行人：別府尚武 水戸川真由美

住所：〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11

2017年度版助成先：この手帳（2017年度版）は、『木口福祉財団地域福祉振興助成事業』および『ドコモ市民活動団体助成事業』からの助成金により作成しました。



書・金澤翔子 「笑」（2012年）

Profile（かなざわ しょうこ）

書家

日本福祉大学客員准教授。

1985年、東京都目黒区生まれ。1990年（5歳）で母・泰子に師事し、書を始める。

2005年（20歳）に銀座書廊で個展開催以後、鎌倉建長寺、京都建仁寺、奈良東大寺、福岡県立美術館、愛媛県美術館などで個展開催。2012年のNHK大河ドラマ「平清盛」の題字をはじめ、熊野大社、厳島神社、三輪大神社で奉納揮毫。天皇の御製を揮毫。2015年3月国際ダウン症連合会（DSi）主催の世界ダウン症の日記念会議：ニューヨーク国連本部でスピーチ。同年ニューヨークで初の個展に続き、ブラハ、シンガポール、ドバイでも個展開催。

翔子さんからのメッセージ

赤ちゃんのご誕生おめでとうございます。

私も、「赤ちゃん」で生まれてきて、今30歳になりました。

お母さまがやさしかったから、怒られても、泣いても、ちゃんと30歳になりました。お母さま、いつもおそばにいてくれて、ありがと。

（注釈：2015年、30歳を迎えた翔子さんは念願の一人暮らしを始めました。）